Topic of the Month

小学生の教育事情

長男が小学校1年生になった当初（2001年）、無知な私たち夫婦は子どもが元気に学校へ通ってさえいれば、家では何もしなくてもいいと考えていた。ところが、除々にこれがいかに甘い考えかを知ることになる。子どもの教育の現状を知るにつれ危機感を深め、現在では夫婦ともに子どもの家庭学習に試行錯誤しながら取り組んでいる…。

2001年4月、長男が小学校に入学した。学校から頂いてきた教科書は「薄くて、オールカラー」隔週で土曜日はお休みだった。2002年からは小学生も週休二日制になってしまった。4月中旬の授業参観では子ども達は多少落ち着きがないように感じられた。きちんと座って、先生の話しを聞くことができない子が多かった。授業中なのに教室前方に設置された鉛筆削りを使用するために数人が立ち歩いた。学級崩壊を彷彿とさせた。幸いにも、ベテランの男性教師で学級崩壊にはならず、7月の授業参観では、落ち着いた授業風景を見ることができた。先生が「このクラス（約30名）でまだきちんとひらがなが書けない子が4名います。鏡文字を書く子、(云々)」とおっしゃられた。我が子は該当していた。今時は入学前にひらがな程度読めて書けるくらいの学習を親がさせているのだろうが、我が家では何も教えていなかったし、一年生の一学期は宿題もあまりフォローしていなかった。学校に任せておけば小学校低学年くらい親が何もしなくても大丈夫だと考えていた。かくしてその日から学習指導を始めた。(小学生の学年）×（15分）は家で勉強させるよう言われている。小学一年生なら15分ポッチである。しかし、である。その15分さえ、一年生には苦痛なのだ。母親が漢字練習の宿題を見てあげていると、書き順を間違えている。「「右」は「ノ」からで、「左」は横棒からね。」と教えてあげる。長男は「書き順なんてどうでもいいジャン。書いちゃえばわからないンだし。」と文句たらたらで素直に従わない。ノートの大きいマスから字がはみ出し、思うように字が書けない。今は学校や家庭での基礎学力の練習時間が足らないのだ。

「ゆとり教育」は1977年から始まり、2002年からさらに加速された。この背景について、「「ゆとり教育」から我が子を救う方法（和田秀樹著　東京書籍)」では次のように書かれている。

「この当時、高校進学率が九〇パーセントを超え、世はまさに高度大衆化教育社会に突入していた。その中で、学校の授業内容についていけない、いわゆる「落ちこぼれ」が大きな社会問題としてクローズアップされ、「これを救済すべき」という教育議論が起こったのがそもそものきっかけなのである。こうした問題を解決する手段として訴えられたのが、授業内容の過密さと子どもたちの学習負担の重さの軽減である。「ゆとり」がキーワードとなり、一九七七年の改訂ではこれに基づいた学習指導要領づくりが行われたのだ。」（同書32頁より）

「その学習指導要領はおよそ10年ごとに改訂されているが、現行のものは二〇〇二年四月に新たに導入されたばかりである。その特徴は、従来のものに比べて授業時間で二割削減、授業で教えるカリキュラムに至っては三割の内容削減を行った点にある。これが世間で、「ゆとり教育」と呼ばれているゆえんでもある。」（同書21頁より）

授業時間や学習内容が大幅に削減され、家庭学習時間に関しても諸外国の平均を大きく下回るそうだ。親は一体何をしたら良いのか。以下に参考になる情報をいくつか提供したい。

まずは、小学校時代にいかに勉強する習慣を身につけさせて、いかに基礎学力をつけるかである。近年、山口小学校での基礎学力徹底への取り組みが話題を呼んでいる。徹底的な漢字反復練習・古文暗唱・音読・「百マス」計算などが挙げられる。このようないわゆる「詰め込み教育」にもかかわらず、子ども達は生き生きとして「学校が楽しい」といい、卒業生の中から有名大学の合格者を高い確率で輩出しているそうだ。次に、いかに理数系分野に興味を持ってもらうかである。我が家では長男が4年生になったので、「小向東芝少年少女発明クラブ」の会員になった。月に一度、面白いイベント、「紙の橋をつくろう」「大きな模型飛行機」等をやってくれる。また、日本機械学会の「ジュニア会友」会員にもなった。機械工学に興味を持つ16歳未満の子どもを対象としており、体験学習の場などを提供してくれる（会費無料。入会金500円)。先日、夏休み子ども向け行事「ミニロボットを作ろう」に参加した。長男はアシスタントの方々に助けてもらいながらミニロボットを無事完成させ、「ものを作るのが楽しい」と嬉しい感想を述べてくれた。10年後が楽しみである。

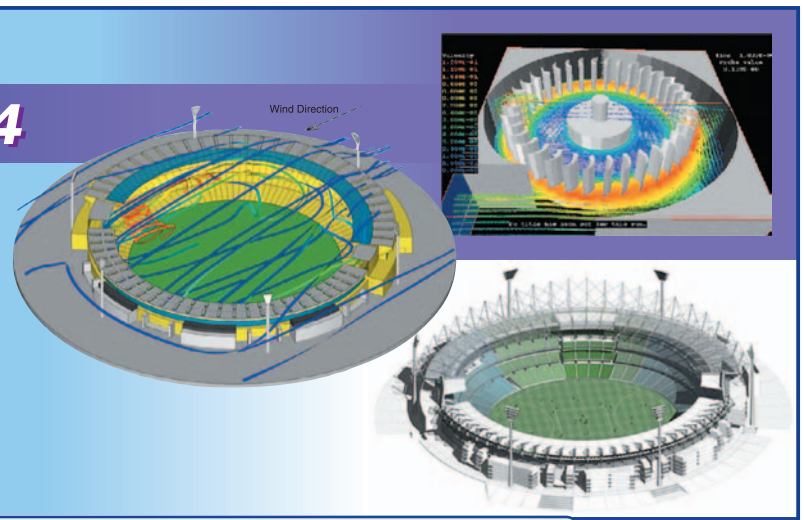
〔文責：小林祐子（東芝）　　イラスト：大塚芳子〕



3次元汎用熱流体解析ソフト

PHOENICS　ユーザカンファレンス 2004

日　　時：2004年12月2日(木)・3日(金)　10:00～16:30
場　　所：日本ヒューレット・パッカード株式会社　23Fセミナールーム
（モノレール/地下鉄東京臨海鉄道 天王洲アイル駅すぐ）
参 加 費：無料
事例発表数：機械、伝熱、環境、電気、燃焼、生物、運動など多くの分野より興味深い発表が多数あり!
●CHAM-Japan創立10周年Party&交流会　開催



お申込方法、詳細は
ホームページ (www.phoenics.co.jp)
メール (info@phoenics.co.jp)
よりご連絡ください。

皆様のご愛好を頂きまして、本年CHAM-Japan創立10周年（CHAM社創立30周年）を迎えることができました。社員一同深く感謝申し上げます。
さて、毎年ご好評頂いておりますPHOENICSユーザカンファレンスは、多くの発表事例を頂き、お客様にとっての数値流体解析をより身近なものにできるような内容となりました。新バージョンであるPHOENICS V3.6の発表および様々な分野にてご活躍しているユーザ様のご発表を取り揃えております。
ご多忙中ではありますが、皆様のご参加を心よりお待ち申し上げております。

CHAM

日本機械学会広告総代理店

◎広告についてのお問い合せは下記へ

学術・技術誌専門広告代理業
株式会社 共栄通信社

本　　社：〒104-0061　東京都中央区銀座7-3-13（ニューギンザビル）
TEL.(03)3572-3381（代）／FAX.(03)3572-3590
IP-TEL.(050)5550-5098
E-mail　info@kyoeitushin.co.jp
大阪支社：〒530-0047　大阪市北区西天満 3-6-8（笹屋ビル）
TEL.(06)6362-6515（代）／FAX.(06)6365-6052
IP-TEL.(050)5550-5099